

ここに注目！



中山間地域と商店街のマッチング事業による活性化

ポイント

中山間地域の産品を販売する軽トラ市を定期的を実施することで、来街するきっかけづくりに。軽トラ市をきっかけに、来街者が商店街や個店に何を求めているのかを知る機会となり、商店街と地域住民が商店街のあり方について話し合うことにつながった。

[現状分析及び課題抽出]

Plan

立地を活かしたまちづくりの方向性

経営者の高齢化や後継者不足などにより、店舗数は減少し、個店の売上げ及び買物等の来街者が激減した。空き店舗率は25%、そのうち16%は再開業不能の店舗となっている。

危機感を感じた若手店主らが、新たな需要を開拓し、少子高齢化社会に向き合う具体的な施策を持ち、地域住民のニーズ及び商店街からの情報発信が必要であると判断、中山間地域に目を向け、商店街を従来の商業集積としてだけでなく、地域コミュニティの場として提供することで、地域住民と信頼関係を持ち、立地を活かした街づくりの方向性を明確化する必要があった。

[対応策の優位性]

Do

中山間地域と商店街の交流をエネルギーに

岩国市が広域合併すると、近隣の中山間地域には多くの活性化につながる資源があるほか、中山間地域に暮らす人々の「街で楽しみたい」という気持ちがあることを知った。中山間地域と商店街の交流をエネルギーにしたアイデアを考え、平成21年に中山間地域で作られた新鮮な農産物等を生産者が商店街へ軽トラで運び、路上市場を創出する中山間地域と商店街のマッチング事業「軽トラ新鮮組！」に取り組んだ。

商店街は「人が集まる空間」を提供し、店主は「売り方のコツ」を助言。丹精込めて育てた生産者から、美味しい食べ方などを直接聞くことができる。この取組を契機に、中山間地域の人々と連携することができ、

基本データ

岩国市中通商店街振興組合

所在地: 山口県岩国市麻里布町

人口: 約14万人(岩国市)

会員数: 39名

店舗数: 43店舗(買回品小売店11、最寄品小売店2、飲食店21、サービス店8、その他1)

商店街の類型: 地域型商店街

主な客層: 高齢者、会社員、主婦

関連 URL: <http://www.nakadoori.jp/>

商店街概要

戦後の復興から高度経済成長期に繁栄した中央型商店街として昭和45年に設立。岩国市の中心市街地に位置し、JR岩国駅に隣接した岩国の玄関口として重要な役割を果たしている。交通インフラの拡充、郊外型大型店舗の進出等により、商店街も経済競争のあおりを受けたが、現在は駅前立地を活かし、地域住民の憩い、交流、娯楽の場、地域情報の宝庫、地域の対外的な顔として、街の賑わいや地域コミュニティの場として役割を担っている。



岩国市の中心市街地に位置し、地域の顔となる商店街の賑わいを創出するとともに、地域に根ざした親しまれる商店街を確立している。

[効果の評価及び改善策]

Check-Action

増加した来街者からさらなるニーズを

軽トラ新鮮組の実施は、商店街を知って、定期的に来てもらう契機となり、来街者の増加だけでなく、来

街者が何を求めているかを知る良い機会となっている。

軽トラ新鮮組を通じて、顔の見える商売の重要性を再認識した。食の安全・安心が重視される中、商品を通じた生産者と消費者のつながりを生み出すことが、商店街の活性化につながっていくと考えている。

現在では、「中通り旬ごよみ（中山間地域と商店街情報パンフレット）」や「新鮮組かわら版」の発行、軽トラ弁当の開発、街づくりカフェ（商店街がどうあるべきかを地域住民と話し合うフォーラム）の実施などに取り組んでいる。

【実施体制等】

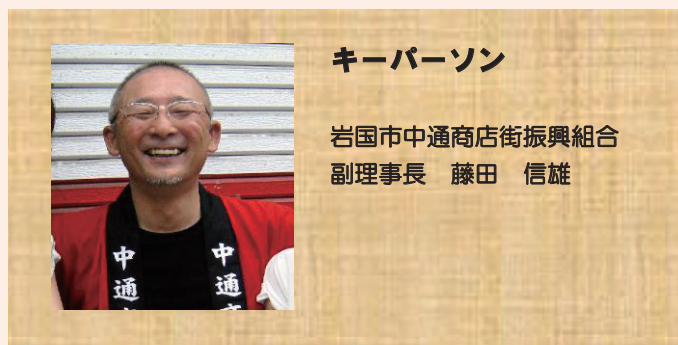
商店街の垣根を越えた連携

駅前地域に在所する3つの商店街等を包括する岩国駅前を活性化する会、株式会社街づくり岩国、街に関わる諸団体、軽トラ市連絡協議会、若者によるイベント推進団体、市や商工会議所等と協働体制を確立し、商店街の垣根を越えた交流や事業に取り組んでいる。

また、国や県などの助成事業を活用し、次世代を担う若手店主や女性部の意見を取り入れ、イベントへの参画や事業提案、関係機関との連携を図り、継続的な事業活動及び商店街の活性化に取り組んでいる。



中山間地域と商店街のマッチング事業「軽トラ新鮮組！」



キーパーソン

岩国市中通商店街振興組合
副理事長 藤田 信雄

街の機能が目覚めさせる里山連携策

広域合併を行った岩国市は広大な里山を有するようになりました。そこで暮らす人々と協働し、里山で育まれた文化を軽トラックに載せて商店街へ運び込み、街を利用する大勢の人々と共有する仕組みづくりは、岩国駅前の名物イベント「軽トラ新鮮組！」として定着しています。これにより、商店街に無いものを補い、賑わいが生まれ、里山にはリアルな街の情報がフィードバックされ、さらに、人が集う街の機能性や可能性は無限に広がりをみせるウィンウィン事業が誕生しました。

フランスでマルシェと呼ばれる路上市を模した軽トラ市は、毎月第三日曜日に定期開催をしています。シンプルな仕組みでスタッフの負担を減らし、継続的な運営を図っているところがポイントです。軽トラ市では農作物や加工食品だけでなく、里山各地に

伝来する料理方法や品物の使い方など、慣習や文化もあわせて運び込みます。そのほか街の飲食店と里山農家のお見合いイベントによって、地産地消を推進し、岩国らしさを追究するマッチング事業も試みています。

物・人・事が交差する中通り商店街

「物」と「人」が集い、そこへ「事」というきっかけを与えれば街は目を覚ますもの。商売人が集まり、物を売り買いする事だけが目的だった旧来の役割は終わり、現代の地方商店街は、地域の人々が暮らしの中で便利に使うための中心的な位置にあるべき場所。つまり街のコミュニティの場としての役目を担う時代になりました。暮らしの情報や散歩空間の提供、公共交通機関の充足を活かした福祉・医療の場、子育て・教育体験の場としての機能を充実させるなど、人・物・事が交流する機会の提供を目指しています。

また、市の中心市街地活性化基本計画との整合性をもちつつ、広域の周辺地域や行政機関等と連携を図り、駅前らしい活性化を推進していきたいと考えています。わざわざ駅前商店街に行ってみたくなるような、価値ある街づくり、商店街づくりに取り組んでいきます。